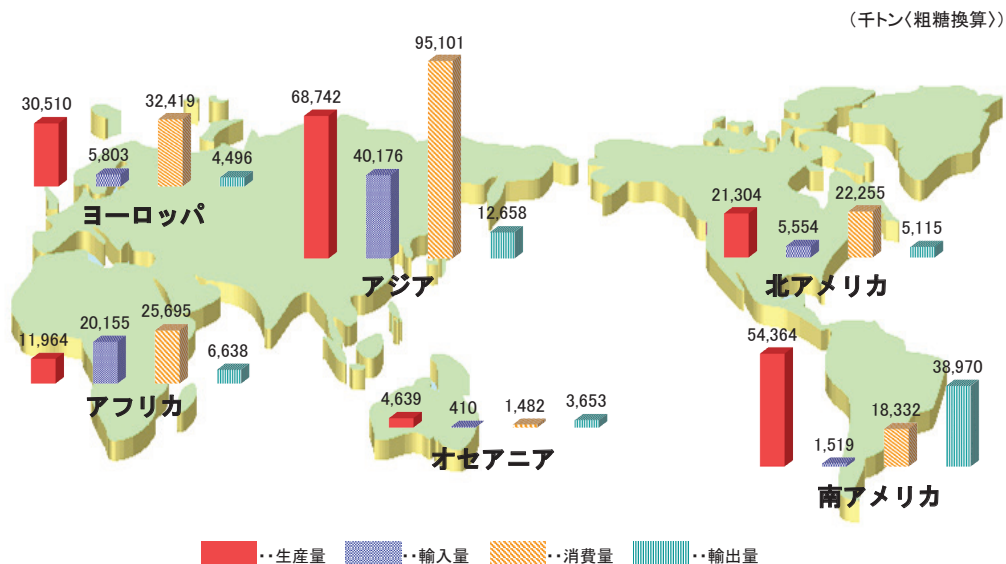


砂糖の国際需給

調査情報部 高田 勇一、峯岸 啓之

1 世界の砂糖需給（2023年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2023/24年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2023」
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン（粗糖換算）、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1993/94	43,011	111,671	29,296	111,545	30,792	41,641	37.3
1998/99	55,071	134,755	36,987	124,048	39,954	62,812	50.6
2003/04	67,776	143,453	44,661	145,044	47,150	63,697	43.9
2008/09	67,085	150,476	48,241	160,676	49,830	55,297	34.4
2013/14	63,710	184,058	58,323	175,873	61,044	69,173	39.3
2018/19	81,087	186,663	61,437	182,775	61,500	84,912	46.5
2019/20	84,912	181,562	69,224	181,949	71,645	82,104	45.1
2020/21	82,104	181,418	66,870	184,119	68,181	78,092	42.4
2021/22	78,092	186,568	69,576	186,824	71,625	75,786	40.6
2022/23	75,786	191,368	69,026	189,159	70,998	76,023	40.2
2023/24 (2023年9月予測)	76,023	191,523	73,618	195,284	71,529	74,350	38.1

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2023」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2024年1月号の掲載となります。直近の内容は2023年10月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003017.html

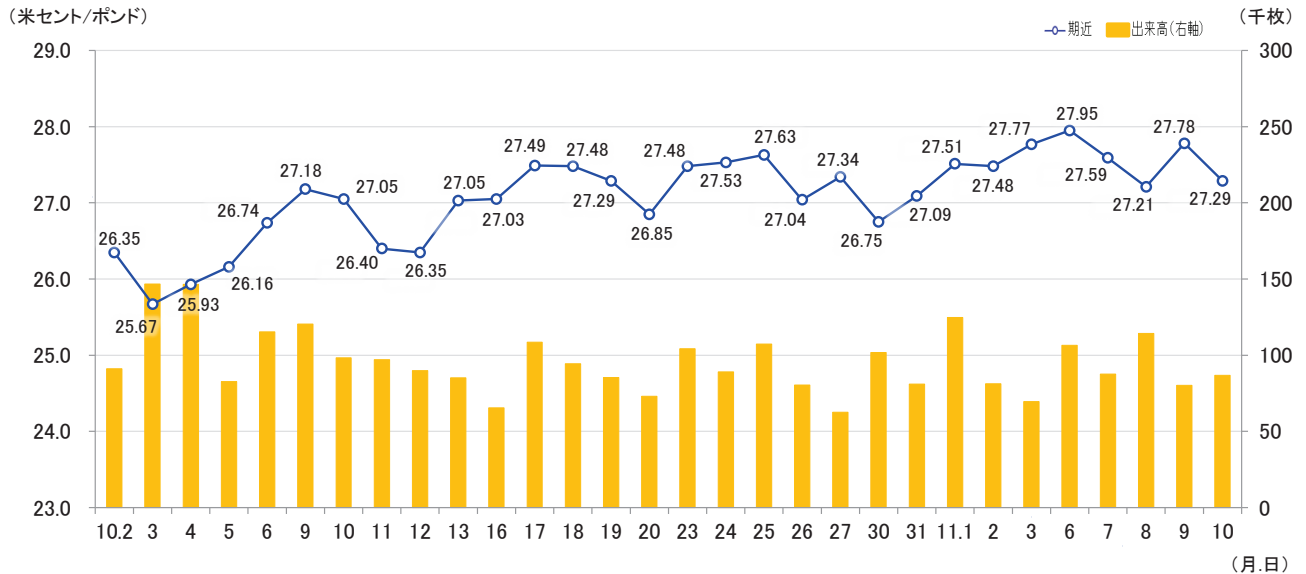
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003018.html

2 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（10/2～11/10）

～世界的な供給懸念から、27セント台を維持～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：期近3月限の値。

2023年10月のニューヨーク粗糖先物相場（3月限）の推移を見ると、2日は、10月限の流れを引きずり、1ポンド当たり26.35セント（注1）をつけた。3日は、リアル安（注2）により、同25.67セントと1カ月ぶりに25セント台に下落した。4日以降は、ブラジルの主産地での降雨予測や米国農務省がタイの砂糖生産見通しを下方修正したことなどから、6日は、同26.74セントと上昇した。9日は、原油価格の高騰（注3）により、同27.18セントと再び27セント台に乗り上げた。10日以降は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が9月までのブラジル中南部の砂糖生産量を前年同期比23.8%増と報告したことなどから、12日は、同26.35セントと下落したが、13日は、原油高を受け、同27.05セントと上昇した。16日以降は、インド政府が10月1日時点の砂糖備蓄量を国内需要の2カ月半を満たすの

に十分な量である570万トンと発表したことなどから、20日は、同26.85セントと値を下げた。23日は国際砂糖機関（ISO）が23/24年度の世界の砂糖生産量を1億7480万トンと前年度比1.2%減と予測したことなどから、同27.48セントに上昇した。24日以降は、UNICAが10月中旬までのブラジル中南部の砂糖生産量を前年同期比23.6%増と報告したことなどから、26日は、同27.04セントと下落した。27日は、同27.34セントと値を上げたものの、30日は、リアル安と原油安により同26.75セントと値を下げた。31日は、タイ政府がインフレ抑制と食料安全保障の維持のために、追加承認が必要な輸出規制品目に砂糖を分類する予定であると発表したことから、世界的な供給懸念が高じて、同27.09セントと上昇した。

11月1日以降は、タイの砂糖輸出規制の懸念が

ら緩やかに上昇し、6日は、同27.95セントと12年ぶりの高値を更新した。7日以降は、原油価格の低迷がロングポジション^(注4)の清算のきっかけとなり、8日は同27.21セントと下落した。9日は、ブラジルでの港湾混雑により10月の輸出量が前月比10%減と報じられたことから、同27.78セントに上昇した。10日は、UNICAが10月下旬までのブラジル中南部の砂糖生産量を前年同期比22.6%増と報告したことから、同27.29セントと下落した。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対

してリアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注4) 将来の値上がりを期待して買いの持ち高を取っている状態。

3 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2023年11月時点予測)

ブラジル

2023/24年度(4月~翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：828万ha(前年度比2.5%減)

生産量：6億8200万トン(同12.4%増)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：4741万トン(同19.4%増)

輸出量：3502万トン(同20.8%増)

2023/24年度の砂糖輸出量は、増産と国際需要の高まりから大幅に増加する見込み

2023/24年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、一部の農家でより収益性の高い大豆やトウモロコシなどへの切り替えが進んだことから、828万ヘクタール(前年度比2.5%減)とわずかに減少すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、主産地の中南部地域で好天に恵まれ収穫に良好な条件が続いたことなどから、6億8200万トン(同12.4%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの増産を受けて、収穫作業や工場での操業が加速しているほか、輸出関連の物流の全面的稼働を背景に、4741万トン(同19.4%増)と大幅に増加すると見込まれる。今後、

同国では雨季を迎えるが、好天が持続すれば12月中旬まで工場の圧搾作業が延長される見込みである。輸出量は、エルニーニョ現象による世界的な天候不順への懸念や国際市場での輸入需要の高まりが期待されることから、3502万トン(同20.8%増)と大幅に増加すると見込まれる。

エルニーニョは2024年6月まで継続する可能性

米国海洋大気庁(NOAA)は11月9日、9月に発生したエルニーニョ現象がますます強くなっており、これから夏を迎えるブラジルでは記録的な高温となる可能性が高まっていると発表した。また、NOAAによると、同国では同現象による影響が2024年秋まで続くと見込まれ、24年4月~6月に

かけて継続する確率は62%と予測されている。さらに、23年11月～24年1月にかけて「スーパー・エルニーニョ」と呼ばれる強いレベルに達する可能性は35%とし、海面水温が平年を3.6度上回ると予想されている。同国では1950年以降、1982～83年、1997～98年、2015～16年の冬に計3回のスーパー・エルニーニョが記録されている。

エルニーニョ現象は太平洋の海水が異常に暖かく

なる現象で、干ばつや洪水、熱帯性暴風雨など、世界中で極端な気候変動や被害を引き起こすことがある。同現象は5～7年ごとに発生し約1年半続く。NOAAによれば、現在発生している同現象は近年で最も強く、同国の北東部と南部では平均以上の降雨を、中央部と南西部では干ばつを引き起こす可能性がある」と警告している。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

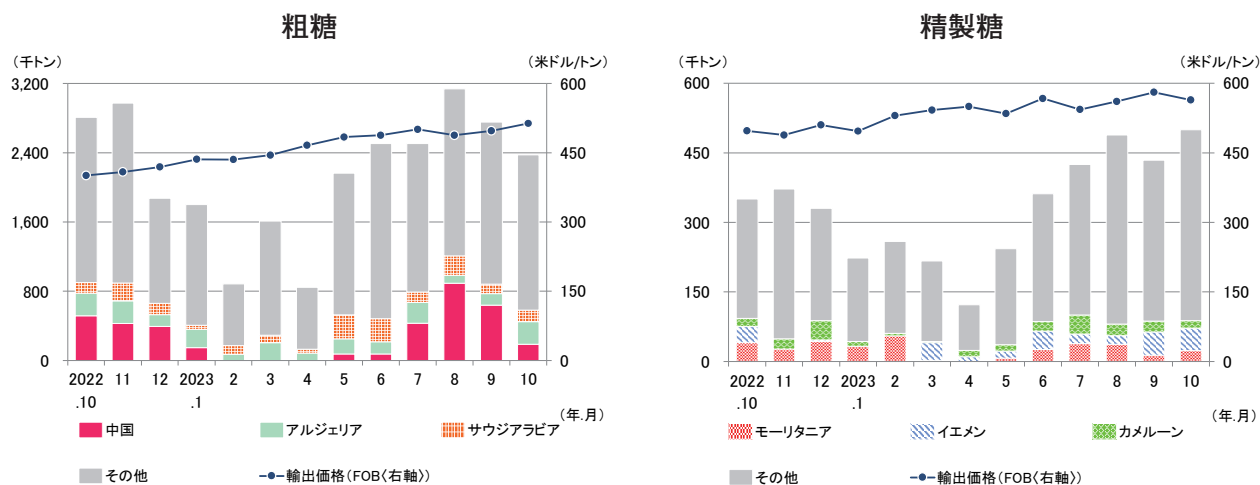
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (10月予測)	2023/24 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,485	8,423	8,276	▲ 2.5%	
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,676	680,000	682,000	12.4%	
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,720	47,010	47,410	19.4%
	輸入量	6	4	2	3	3	48.8%
	消費量	10,916	10,718	10,557	10,715	10,715	1.5%
	輸出量	34,042	27,088	28,985	35,592	35,021	20.8%
	期末在庫量	3,758	3,576	3,756	4,462	5,433	44.6%
	期末在庫率	8.4	9.5	9.5	9.6	11.9	2.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

インド

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：546万ha（前年度比0.4%減）
生産量：4億4322万トン（同3.7%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3195万トン（同8.9%減）
輸出量：348万トン（同59.5%減）

2023/24年度の砂糖輸出量は、減産と国内供給の確保により大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、546万ヘクタール（前年度比0.4%減）と前年度からほぼ横ばいで推移すると見込まれる（表3）。サトウキビ生産量は、過去5年間でモンスーン期の降雨が最も少なかったことやカルナータカ州とマハラシュトラ州の一部など南西部では、乾燥した天候がサトウキビの生育にマイナスの影響を与えたことから、4億4322万トン（同3.7%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、インド北部ではサトウキビが順調に生育しているものの、他の主産地でのサトウキビの減産が見込まれることから、3195万トン（同8.9%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量は、砂糖の減産見込みやエタノールへの仕向け量の増加のほか、国内市場価格の安定を優先する観点から、348万トン（同59.5%減）と大幅な減少が見込まれる。

2023/24年度の砂糖輸出制限を延長

インドの商工省外国貿易部（DGFT）は10月18日、砂糖の輸出制限を11月1日以降も延長すると発表した。これによるとEUおよび米国向けの関税割当を除いた砂糖の輸出制限が延長される。なお、延長の終期は追って通知するものとしており、23/24年度の輸出枠は公表されていない。

この発表は、22年10月28日に発表された砂糖の輸出制限（22年10月31日～23年10月31日まで）の延長にあたる。昨年は輸出制限発表の約1週間後の11月6日に、インド消費者問題・食糧・公共配給省によって、国内の製糖工場の財務状況を安定させる措置として、約600万トン（前年度比46.4%減）の輸出枠の割り当てが公表された。

23/24年度の輸出制限の延長発表により、供給不安への懸念が強まる可能性があり、今後のインド政府の動向が注目される。

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

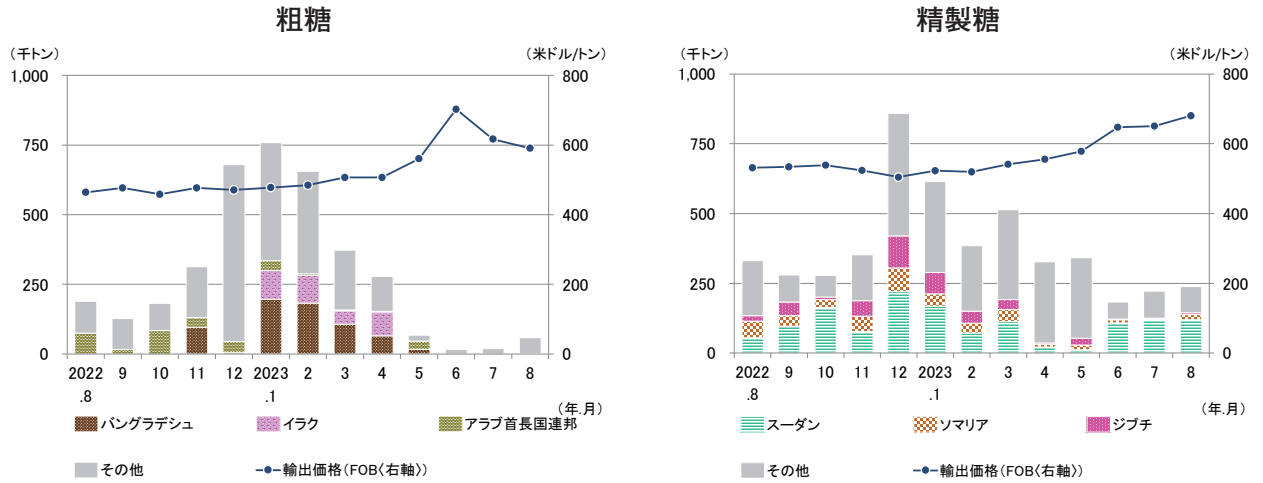
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (10月予測)	2023/24 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,804	5,197	5,483	5,546	5,463	▲ 0.4%	
サトウキビ生産量	414,392	480,180	460,037	455,147	443,221	▲ 3.7%	
砂糖	生産量	33,642	38,559	35,065	32,326	31,949	▲ 8.9%
	輸入量	1,037	428	1,686	2,383	3,070	82.1%
	消費量	28,679	29,516	30,456	30,888	30,888	1.4%
	輸出量	8,538	12,468	8,589	2,718	3,478	▲ 59.5%
	期末在庫量	7,971	4,973	2,679	4,100	3,332	24.4%
期末在庫率	21.4	11.8	6.9	12.2	9.7	2.8ポイント増	

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

中国

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比0.3%減）
 生産量：7008万トン（同11.9%増）

【てん菜】

収穫面積：18万ha（同9.5%減）
 生産量：895万トン（同2.3%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1053万トン（同8.6%増）
 輸入量：661万トン（同11.6%増）

2023/24年度の砂糖生産量はかなりの程度、
 輸入量はかなり大きく増加する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、116万ヘクタール（前年度比0.3%減）とほぼ横ばいで推移すると見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、年初に広西チワン族自治区で続いた乾燥が生育の懸念材料となっていたものの、8月から9月にかけて降雨に恵まれたことから、7008万トン（同11.9%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。一方で、てん菜の収穫面積は、^{しんきょう}新疆ウイグル自治区で寒さによるてん菜の部分的な不作が生じたことなどから、18万ヘクタール（同9.5%減）

とかなりの程度減少すると見込まれる。てん菜生産量は、収穫面積の減少に加え、内モンゴル自治区で乾燥した天候が懸念されたものの、895万トン（同2.3%増）とわずかに増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの生産回復を背景に、1053万トン（同8.6%増）とかなりの程度増加し、21/22年度の水準にまで回復すると見込まれる。輸入量は、昨年度世界的な砂糖価格の上昇などを背景に在庫の取り崩しが進んだことから、それを補うための輸入が増え、661万トン（同11.6%増）と昨年度の水準を上回る輸入が見込まれる。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

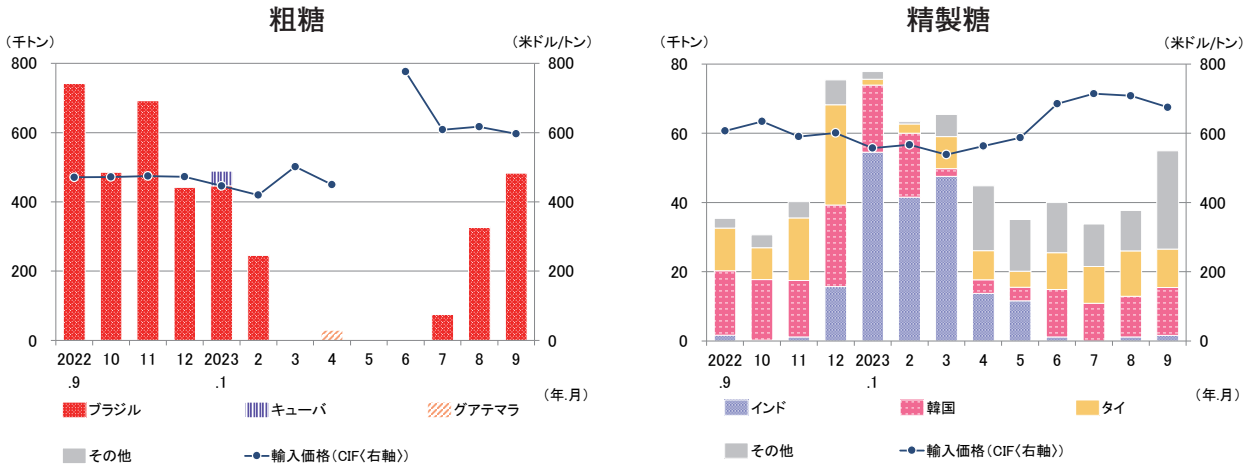
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (10月予測)	2023/24 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,157	1,119	1,163	1,160	1,160	▲ 0.3%	
サトウキビ生産量	72,441	72,136	62,635	70,075	70,075	11.9%	
てん菜収穫面積	231	144	199	180	180	▲ 9.5%	
てん菜生産量	12,330	7,070	8,753	8,953	8,953	2.3%	
砂糖	生産量	11,530	10,334	9,698	10,534	10,534	8.6%
	輸入量	8,198	6,961	5,926	6,639	6,611	11.6%
	消費量	16,740	16,524	16,848	16,956	16,956	0.6%
	輸出量	134	172	201	167	186	▲ 7.2%
	期末在庫量	15,919	16,517	15,093	15,095	15,096	0.0%
	期末在庫率	94.3	98.9	88.5	88.2	88.1	0.5ポイント減

資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

注3：2023年3、6月の粗糖輸入量は、千トン未満のため表示なし。

注4：2023年5月の粗糖輸入は、実績なし。

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：144万ha（前年度比3.2%増）
生産量：1億394万トン（同5.1%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1663万トン（同6.2%増）
輸出量：215万トン（同2.1倍）

2023/24年度の砂糖生産量は回復し、輸出量は増産などを背景に大幅に増加する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、EU最大のてん菜主産地であるフランスで減少が見込まれるものの、トウモロコシや小麦と比較して、てん菜の収益性が高いことなどから、ポーランドやスペインで作付面積の増加が見込まれ、144万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、この数カ月間北西ヨーロッパ地域の大部分で良好な降雨と日照に恵まれ、作柄の見通しが改善されたことから、1億394万トン（同5.1%増）とやや増加する

と見込まれる。

砂糖生産量は、^{いおう}萎黄病（注）の影響が限定的との見通しやバイオエタノールに利用するてん菜の減少などから、1663万トン（同6.2%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。輸入量は、てん菜の増産が期待されることから、262万トン（同19.1%減）と大幅な減少が見込まれる。また、輸出量は、215万トン（同2.1倍）と18/19年度の水準まで回復が見込まれる。

（注）アブラムシによって媒介される植物ウイルス病。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

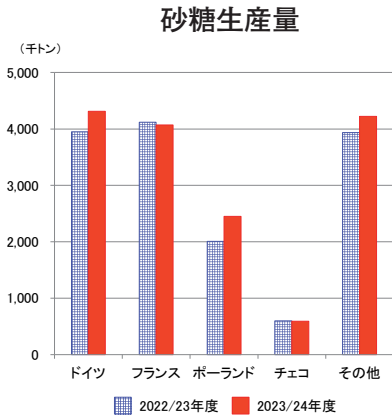
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (10月予測)	2023/24 (11月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,474	1,454	1,396	1,441	1,441	3.2%
てん菜生産量	98,508	111,404	98,940	104,647	103,942	5.1%
砂糖	生産量	14,717	17,153	15,667	16,580	6.2%
	輸入量	1,888	2,132	3,239	2,946	▲ 19.1%
	消費量	16,357	17,653	17,520	17,540	▲ 0.6%
	輸出量	1,262	1,312	1,022	2,160	2.1倍
	期末在庫量	1,332	1,651	2,015	1,722	▲ 15.5%
	期末在庫率	7.6	8.7	10.9	8.7	8.7

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2023」

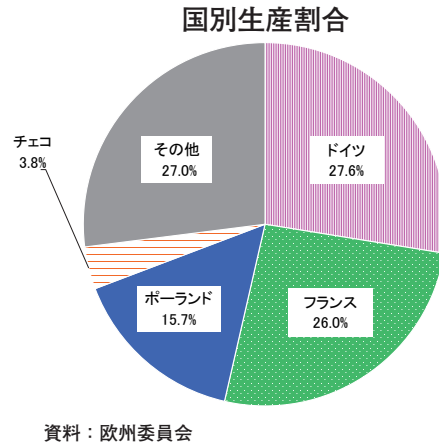
注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2023/24年度) (2023年9月時点)



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算
注2：2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度は予測値。



資料：欧州委員会

4 日本の主要輸入先の動向 (2023年11月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国がほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度比3.3%増）
生産量：3073万トン（同5.7%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：437万トン（同1.7%増）
輸出量：337万トン（同14.6%増）

2023/24年度の砂糖輸出量は、需要の高まりからかなり大きく増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度比3.3%増）とやや増加が見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、主産地であるクイーンズランド州北部での季節外れの降雨の影響を受けて収穫が遅れ、3073万トン（同5.7%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビが減産見込みであるものの、エルニーニョ現象の影響とされる乾燥した天候により、CCS^(注)の数値は高くなっていることか

ら、437万トン（同1.7%増）とわずかに増加すると見込まれる。しかし、今後、エルニーニョ現象が強まり、サトウキビ生産地で乾燥が進むことは、24/25年度のサトウキビ生産にはマイナスに働く可能性がある。輸出量は、主要輸出先である韓国、インドネシアおよび日本などの砂糖消費需要が堅調であることに加え、50年ぶりに再開された英国への輸出や、世界的な砂糖の供給懸念による豪州産砂糖の需要の高まりなどから、337万トン（同14.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

(注) 可製糖率：サトウキビのシヨ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

EUとのFTA合意の持ち越しを評価

豪州の主要サトウキビ生産地であるクイーンズランド州の生産者団体のCANEGROWERSは10月30日に同団体のホームページで、豪州とEUの自由貿易協定（FTA）の合意が持ち越されたことについて、農家にとって不利な協定に署名するよりも、EUとのFTA交渉から撤退するという勇気ある決断を下した連邦政府のドン・ファレル貿易・観光相に対し敬意を表した。

同相は、G7大阪・堺貿易大臣会合のための来日に際し、その傍らで豪・EU間のFTAが妥結されるのではないかと期待されていた。しかし、EUから提示された条件が豪州農業にとって不利なものであり、締結には至らなかった。

CANEGROWERSのダン・ギャリガンCEOは、同相があらゆる段階で業界と緊密に協力・協議し、常に誠意をもってこの5年間EUと交渉してきたと敬意を示す一方、EUから、砂糖を含む豪州産農産物に有意義な条件を引き出すことに失敗しており、今回も容認できる代案が示されなかったことについて不満を呈した。

また同氏は、EUは200万トン粗糖を輸入しており、EUの精糖企業は豪州で生産されるような高品質で持続可能な砂糖への条件を切望していることについても述べた。この問題に関して引き続き政府と協力し、交渉が再開するようなことがあれば、有意義な条件を引き出すため、最大限の努力を払うとした。

今後、EUとのFTA交渉は、2024年に欧州議会選挙を控えていることなどを理由に、しばらくは進展が望めないと見通されている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (10月予測)	2023/24 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	354	343	328	339	339	3.3%	
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,593	31,031	30,727	▲ 5.7%	
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,298	4,405	4,369	1.7%
	輸入量	10	9	16	14	14	▲ 12.5%
	消費量	1,010	1,010	1,009	1,010	1,010	0.1%
	輸出量	3,377	3,453	2,942	3,409	3,373	14.6%
	期末在庫量	790	444	807	668	807	▲ 0.0%
	期末在庫率	18.0	9.9	20.4	15.1	18.4	2.0ポイント減

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2023]

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：152万ha（前年度比6.2%減）
生産量：7500万トン（同20.1%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：915万トン（同21.7%減）
輸出量：623万トン（同24.3%減）

2023/24年度の砂糖生産量と輸出量は、大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、エルニーニョ現象などによる乾燥天候を考慮して、より乾燥に強いキャッサバに転換する農家が増加しており、152万ヘクタール（前年度比6.2%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、収穫面積の減少に加え、

エルニーニョ現象による天候不順がサトウキビの生育に大きく影響し、7500万トン（同20.1%減）と大幅な減産が見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの減産を受け、915万トン（同21.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。輸出量も、砂糖の減産を背景に、623万トン（同24.3%減）と大幅に減少すると見込まれる。

表7 タイの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (10月予測)	2023/24 (11月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,485	1,525	1,617	1,502	1,518	▲ 6.2%
サトウキビ生産量	66,659	91,145	93,888	75,000	75,000	▲ 20.1%
砂糖	生産量	8,046	10,638	11,693	9,154	▲ 21.7%
	輸入量	111	149	215	195	0.0%
	消費量	3,592	3,424	3,348	3,309	▲ 1.2%
	輸出量	3,981	8,085	8,229	6,212	▲ 24.3%
	期末在庫量	5,116	4,395	4,725	4,488	▲ 3.7%
	期末在庫率	67.6	38.2	40.8	47.1	47.7

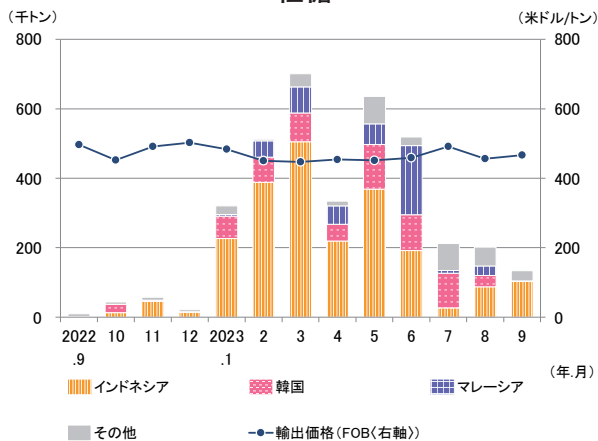
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

精製糖

